

校長室の窓

令和８年10月23日
学校だより第７号より

～秋田でも注目！　月立小と地域とのつながり～

10月１日・２日、秋田市で「第40回東北地区へき地教育研究大会」が開催され、校長が月立小学校の教育活動について研究発表をしてきました。この大会は、東北各地のへき地・小規模校の先生方が集まり、それぞれの学校の実践や課題を持ち寄って学び合う場です。

本校からは、八瀬川での自然体験、軽トラ市、早稲谷鹿踊、敬老帳などを通して、子供たちが地域の方々や異学年の仲間と関わり、自分の役割やよさを実感していく姿を紹介しました。同じ会場で発表した秋田県の小規模校でも、地域と協力して「軽トラ市」に取り組んでいることが分かり、思いがけない共通点に参加者一同が驚きました。

発表後の話合いで、最も活発に質疑や意見交換が行われたのは「月立マイスター」の取組についてでした。学校を支える地域の方々や保護者など約40名のお名前と支援内容を記したカードを玄関に掲示し、その日来校する方を「本日のマイスター」として紹介しています。子供たちが自分たちを支える人の存在に気付くだけでなく、地域の方々にとっても、自分の経験や力が学校に生かされていることを実感できる仕組みです。参加者からは「自分たちの学校でもやってみたい」という声が聞かれました。また、この取組を学校支援ボランティア「こだま隊」が主体となって進めてきたことにも、高い評価をいただきました。

また、こだま隊と学校が相談を重ねて始めた「図書館地域交流日」も注目されました。活動を支える方々の固定化や高齢化は、他校でも共通する課題です。地域の方が気軽に学校を訪れ、新たな関わりをつくるこの試みも、今後の可能性を広げる取組として評価されました。

大会を通して改めて感じたのは、月立小学校の日常を支えている保護者・地域の皆様の力の大きさです。今回寄せられた評価は、学校だけではなく、子供たちのために力を尽くし、新しい取組を生み出してくださる皆様への評価でもあります。そのことを、何より皆様にお伝えしたいと思います。